

初代肝細胞スフェロイド培養系樹立・肝機能評価を簡便に!

特別な操作は不要

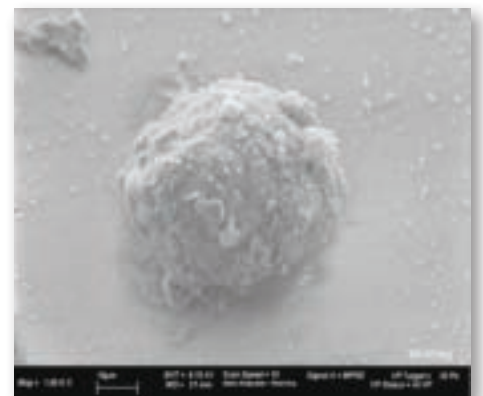
- 通常のマルチウェルプレートと同一形状。
- 12穴と96穴の二種類からお選びいただけます。
- 初代肝細胞培養用に最適化した最適化した培地とキットになっております
- 初代肝細胞を播種するだけで、高密度に3D培養(スフェロイド培養)が簡単に行えます。
- 既存のプレートリーダーなどにそのまま用いることが可能です。



フィーダー細胞と初代肝細胞を2回に分けて播種

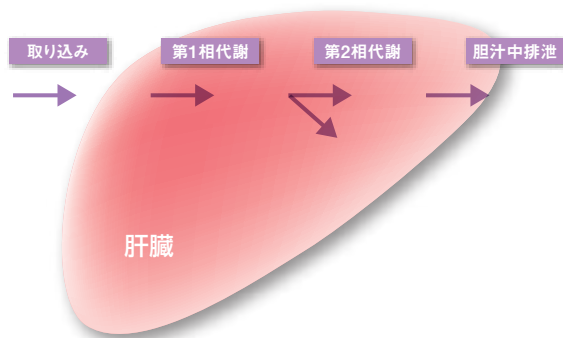
Cell-ableによる共培養の特徴

- 非実質細胞との共培養を行うことで、より長期間肝機能維持が可能となります
- 基材に直接肝細胞を接着させるよりも、フィーダー細胞上へ肝細胞を接着させた方がより強固な接着となり、ヒト凍結肝細胞の非接着ロットもスフェロイド形成可能となります



トータルな肝機能評価系への可能性を切り開く〈Cell-able〉

肝臓機能のin vitroでの再現



対象	取り込み トランスポーター	第1相代謝酵素	第2相代謝酵素	排泄 トランスポーター
評価系の現状	肝ミクロソーム	肝ミクロソーム 凍結肝細胞	肝ミクロソーム 肝上清	胆管側膜ベシクル 肝サンドイッチカルチャー

別々の評価系から

同一の評価系へ

Cell-able	取り込みの活性維持 (数日間)	安定した代謝活性 維持(約2週間)と 高い誘導比率	安定した代謝活性 維持(約2週間)	排泄の活性維持 (数日間)
トータルな肝機能評価系				

- 肝の、「取り込み」、「第1相代謝」、「第2相代謝」、「胆汁中排泄」の各過程において、より長時間、より安定した活性の維持を実現しました。
- これまで、別々の実験系により評価が用いられてきましたが、Cell-ableによって、同一の評価系でのトータルな評価の可能性が見えてきました。